



第8号(特集号)

発行:金武町教育委員会
住所:〒904-1293 沖縄県
国頭郡金武町字金武7758
TEL:098-968-2991
FAX:098-968-4963
E-mail:yukio_g@town.kin.okinawa.jp

金武町学力向上対策分析検討委員会の分析報告

金武町学力向上対策分析検討委員会

委員長 安富信武

育教の目的は、地・徳・体の調和の取れた心身ともに、健康な児童生徒を育成することである。

とりわけ、将来において充実した自己実現を図るためには、児童生徒がその各時期において、基礎学力を確実に習得することが重要である。

平成二十年四月二十二日に実施された「全国一斉学力テスト」の結果、本町の児童生徒の成績は極めて憂慮され、緊急の対策が求められるのが現状でした。

当委員会は、平成二十年十一月に、町学力対策委員長から

「学力向上の方策」についての諮問を受け、直ちに提言の取りまとめに入りました。

先ず昨年の十一月十八日に各学校から「学力テスト」の成績と分析・対策や課題等について、詳細に説明を受けました。また課題を明確にする観点から学校を訪問し、授業参観や、校長から学力向上対策等の説明を受けました。さらに学力の先進地域の実践例や、識者の意見も参考にしながら、短い期間ではあったが「学力向上緊急対策」の提言に向けて鋭意取組んで来ました。その結果、現状を打開し学力

向上を図るには、児童生徒はもとより、学校・家庭・地域社会・関係機関がそれぞれの役割と責任を明確にし、相互の連携を深めること、そして各学校や教育委員会が企画する、学力向上に関する諸事業に積極的かつ継続的に取組むことが肝要であると、結論づけました。

A小学校が「平成二十一年度学力調査活用アクションプラン推進事業に係る推進校」として金武町教育委員会の推薦により県から指定を受けました。

そこで、今回はA小学校と地域の「学力向上の施策」を以下の通り取りまとめて答申し致します。今後、A小学校と地域への学力向上に係る施策についての課題や成果等を、分析検討委員会で協議し、適宜、他の学校や地域に生かせるようにしていきたいと考えております。

I、金武町立小・中学校取り組み一覧表(参考資料)
II、A小学校の学力向上対策及びコンピュータ整備状況

III、A小学校全国学力・学習状況調査結果の分析・

考察及び対策・課題

IV、各PTAの取組について

V、家庭学習・基本的生活習慣の確立について

VI、地域人材の活用及び各種団体への協力について

VII、平成二十一年度新規事業等(参考資料)

VIII、平成二十一年度事業計(参考資料)



小中学校取組等一覧表

※金武町学力向上対策委員会分析検討委員会参考資料

教育 委員会へ	取組②	取組①	課題②	課題①	全国学力 調査取組	町 基礎学力	到着度	学校名
					小 6 ・ 中 3	小 5	小 4 ・ 中 2	
先進校・実績のある講師を招聘して学習会を持ち、教育実践に活かしたいB問題資料提供	相互に模範授業の参観、伝達講習等の学習会等で授業力をつける	朝の一斉読書百マス計算、B B 塾漢字前倒し	朝食を一緒にとらない全く食べない	少人数のため一人一人の影響大	全職員体制で取り組んだ	全職員体制で取り組んだ	全職員体制で取り組んだ	中 川 小学校
	漢字検定百マス計算6年弱点克服指導朝国語、算数集中指導	学 習 基 本ルール確立、授業工夫改善に向けて教師の意識改革、個に応じた家庭学習の指導と点検	普段夕食一緒にとらない家庭が多い	高学年の親ほど提出物への関心が薄い	全職員体制で取り組んだ	全職員体制で取り組んだ	全職員体制で取り組んだ	金 武 小学校
①家庭学習等の教育予算 ②学習支援の継続(4・5・6年) ③算数等の少人数指導教師の継続 ④教育機器環境等の整備	分かる授業を作る自発的に学習できる教育環境作り、読書活動の推進	学校・地域・家庭との連携を密に更なる家庭学習の習慣化を図る	全体的に言語に対する理解力の不十分なところがある	小4学級学習支援を要する児童低学力児童の状況は深刻	全職員体制で取り組んだ	全職員体制で取り組んだ	全職員体制で取り組んだ	嘉 芸 小学校
						・テストに向けて、練習問題の資料提供し実践力をつけさせる。Web情報の提供	・教頭研校長研で取組について協議 ・資料・情報提供	学力向上対策委員会及び分析検討委員会
授業で理解できても、家庭学習などで復習をしなければ定着できない。家庭学習の定着を図る取組について地域全体で強化できないか。	家庭学習の状況に注意を払い、できるかぎり個人的な指導を展開する	学校裏サイト対策忘れ物対策	朝食をとる割合が低く朝食を孤食の割合が高い	学習の心構えが低い登校前持ち物チェックしない	各教科の課題や考察を示し、対策を打ち出している	学年・学習支援者で習熟度別指導	学年・学習支援者で習熟度別指導	金 武 中学校

I 平成20年度金武町立

学童保育	給食食育等	補習補充等	21年度特別支援等	昼休み	授業前活動等	百マス計算	読書	教育ソフト活用	諸検定
20人		火4週1回 補習指導	特別支援1人 学習支援1人 通級支援1人	歯磨き	火木：15分 音読	毎朝10分 タイマー設定で集中力を高めている	毎朝10分量より質への変換を目指し成果を上げている	月：15分 算数 金：15分 国語	検定試験回数を増やし学習意欲に効果大
並里区 20人		毎週月補習又は補充授業並里区	特別支援学級知的肢体設置認可特別支援5人 学習支援3人 通級支援1人	歯磨き	挨拶運動 愛好活動（清掃草花の世話） 健康観察	木：10分	各週で2日朝読書	教育ソフトに関する自主研究プリント等で児童への活用	検定試験回数を増やした結果各級の合格者の数増大
金武区 24人									
伊芸区 7人		特になし	特別支援2人 学習支援2人 通級支援1人	歯磨き	木：安全活動日 金：生活集会 ・音楽 ・音読 ・古里音楽 ・地域人材講話	毎朝15分 百マス音読練習 漢字練習	週2・3日朝自由読書週1日読み聞かせ	各学年で個に応じた基礎基本の徹底及び学習に活用	検定試験
屋嘉区 28人									
連携による家庭学習支援ができるよう関係機関関係各位協議しより良い事業につなげる	来年度の学力向上対策に向けて ○特別支援教育推進員を教育委員会に配置し、特別支援教育の対象となっている幼児・児童・生徒並びに特別支援教育支援員と担任への支援。 ○諸検定試験補助費を増やし、更なる成果に寄与する。 ○インターネット利用の教育ソフト活用に向けた環境整備 ○Q U研修会 ※学級集団の分析と対策について研修し、居心地の良いクラスにするためにやる気のあるクラス作りに寄与する。 ○授業力向上に向けた研修を各校で実施（県内外の先生を招聘） ○活用型問題対応指導力向上研修会（県内外の先生学童保育）							来年度各教室にテレビとパソコン配置を計画	来年度諸検定を積極的に取り組ませるために予算を増やす予定
			特別支援6人 学習支援3人	歯磨き			週5日 15分	受験生等対象を絞りP C教室で活用	英語検定で準1級合格者

Ⅱ A 小学校の学力向上対策及びコンピュータ整備状況

項 目	学 年	目 標	摘 要
読書目標の設置	低 学 年	110 冊	読書の習慣化・楽しみの理解
火・木は朝の自由読書15分	中 学 年	100 冊	言語能力・語彙の拡大
	高 学 年	90 冊	思考力・想像力の養成
百マス計算・宿題課題	全 学 年	毎日取組	コンピュータ活用学習・宿題
がんばりノート・宿題課題	全 学 年	家庭学習の課題	漢字書取り修練・日記記帳
がんばりノート・ドリル問題集	全 学 年	学対で予算化依頼	がんばりノートは各区費へ申請
Aっ子の時間	全 学 年	少人数・個別指導	毎週 1 時間・全職員体制
少人数加配授業	3 から 6 年生	加配教員配置	予定通りのカリキュラム進行
(領域別プリント使用)	未習熟学級	担任・ベテラン配置	過年度課題克服からスタート
全国学力テスト	6 年生学級	80 点平均	4 月のみ週 1 ～ 2 回
到達度テスト対策	4 年生学級	80 点平均	9 月～12月週 1 回
家庭・父母との連携	全 学 年	家庭学習の習慣化	がんばりノート確認・アンケート回答
読み聞かせ・月曜日朝15分	全 学 年	読み・楽しみ方理解	地域の人材・ボランティア活用
先輩から学ぶ進路学習	全 学 年	先輩との交流	職場の具体例を知り進路を考える
英語学習・活動	1・2 年	国際化への触合い	隔週 1 単位時間
	3・4・5・6 年	グローバル化理解	毎週 1 単位時間
コンピュータ設置状況	全学年用	40台・パソコン教室	2008年 9 月設置
	全 職 員	各自 1 台管理用	現在事務用 2 台のみ・不足
	全 教 室	大型モニターテレビ	BB塾授業用・予算申請中不備

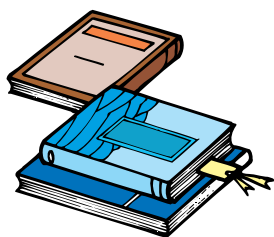
(一) 六年児童の現状課題報告
(二十三人)。

・算数においては、特に個人差がある。全体的に「数学的な考え方」の力が弱い。
・国語においては語彙力の乏しさと表現力の低さが見られる。

・既習事項を利用する力が弱い。
・家庭学習が習慣化されていない児童が四～五名いる。
・サポーターの支援対象者が二人いる。

(二) 今後の学校での取組・対策について。

・全職員協力体制のもとに授業や補修などの取り組みを進める。
・算数には二人の教師が対応するので、習熟度別クラスなど、その単元に応じたクラス編成を行い理解力を高める。
・「基礎・基本」の時間を充実させる。
・補修の「Aっ子タイム」では、全職員の対応で指導を計画



- ・家庭学習帳にサインをするなど保護者との連携をとり、子どもの学習がどのような状況にあるかを知ってもらおう。
- ・日々の学習課題に「日記」がある、毎日「テーマ」を与えそのことについて自分の考えを書かせ、「書く力」「表現する力」をつけたい。
- ・金武町派遣のパソコン指導員による指導を充実させ、児童一人一人が自らが学習できるように、教育環境を整えていく。

Ⅲ A小学校全国学力・学習状況調査結果の分析・考察及び対策・課題

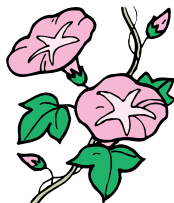
1、A小学校の分析（平成20年度全国学力・学習状況調査）より

算 数			
算数A（知識に関する問題）	正答率の低い児童がやや多い		
算数B（活用に関する問題）	正答率の低い児童が大変多い。		
質問事項	正答率	質問事項	正答率
算数の授業では先生の話をしっかり聞いている	74%	算数の宿題はきちんとしている	76%
算数の授業では分からないことがあれば、先生に質問している	84%	そろばんをやっている	66%
算数の授業ではきちんとノートを取っている	82%	返却された算数の答えは必ず見直している	50%
算数の授業はだいたい理解している	76%	算数の授業のための予習をしている	11%
算数の授業で習ったことは復習している	47%	計算式は後から見て分かるようにきれいに書いている	21%
全職員の熱意の下、事前補修指導の効果が現れているが、いまだレベルアップが必要な状態である。国語の結果と同様に、やはり子どもたちの自主的なまたは、家庭学習を中心とした学校外での学習が定着してないため、学力向上が進まない状態がテストの結果に現れていると考えられます。			

国 語			
国語A（知識に関する問題）	正答率の低い児童が多い		
国語B（活用に関する問題）	正答率の低い児童が大変多い。		
質問事項	正答率	質問事項	正答率
国語の授業で分からないことがあれば先生に質問している	74%	国語の宿題はきちんとしている	39%
国語の授業ではきちんとノートをとっている	89%	「漢字検定」の勉強をしている	24%
国語の授業はだいたい理解している	74%	話し合いで自分の考えを話している	18%
国語で習ったことは復習している	74%	分からない漢字があれば辞書で引いている	29%
上記、調査結果からすると、学校内や教師の目の届く範囲内における子どもたちの学習態度は良好であるし、素直に指導を受け入れている様子がうかがえます。子どもたちが校外において自主的あるいは主体的な学習に取り組んでいない様子が窺えます。			

二、平成二十年町学力検査結果 のA小学校の独自分析よりの 考察

- ①平成二十年度「学力調査結果」から三段階評定の割合（棒グラフで表示）
- ・全国平均・金武町平均点を勘案評価し、人数割合をグラフにした。
- ・学年別二年生から六年生及び学校全体平均人数を示してある。
- ②平成二十年度「学力調査結果」から全国・金武町との正答率の比較（棒グラフで表示）
- ・国語と算数の平均正答率比較をグラフにした。
- ・学年別二年生から六年生及び学校全体平均正答率を示してある。



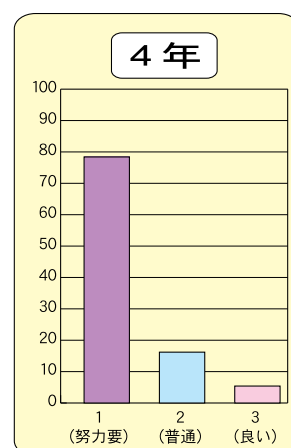
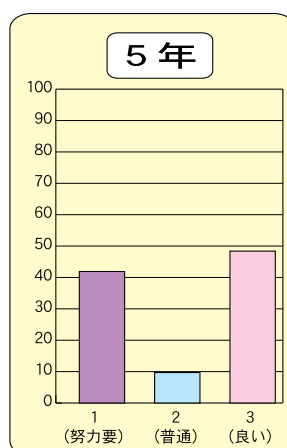
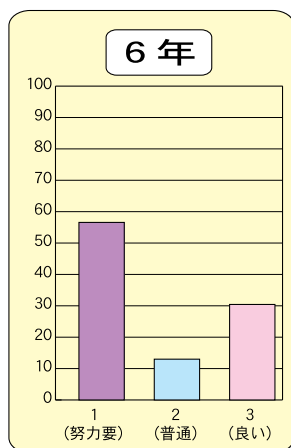
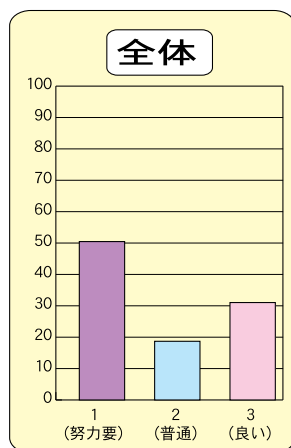
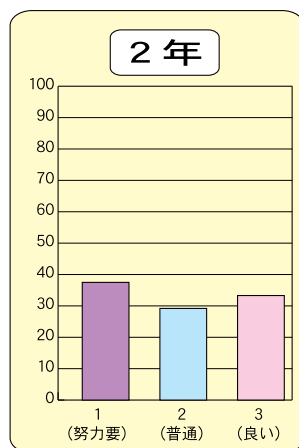
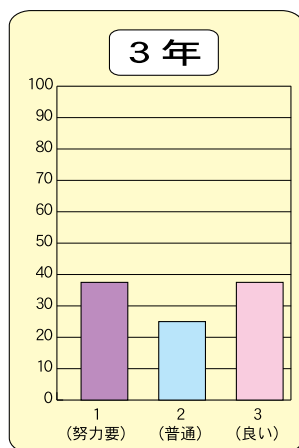
○1学期までの課題

平成20年度「学力調査結果」から
3段階評定の割合

A小学校

数値は割合（％）

国 語			
評 定	1 (努力要)	2 (普 通)	3 (良 い)
2 年	37.5	29.2	33.3
3 年	37.5	25.0	37.5
4 年	78.4	16.2	5.4
5 年	41.9	9.7	48.4
6 年	56.5	13.0	30.4
全 体	50.4	18.6	31.0



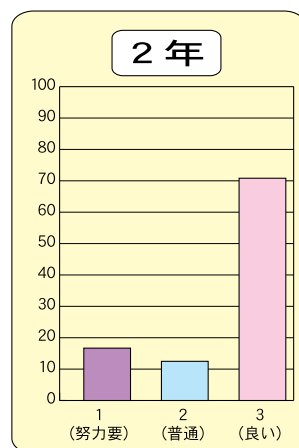
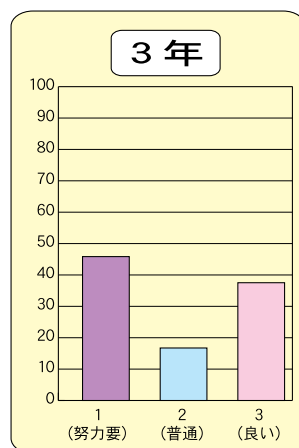
○1学期までの課題

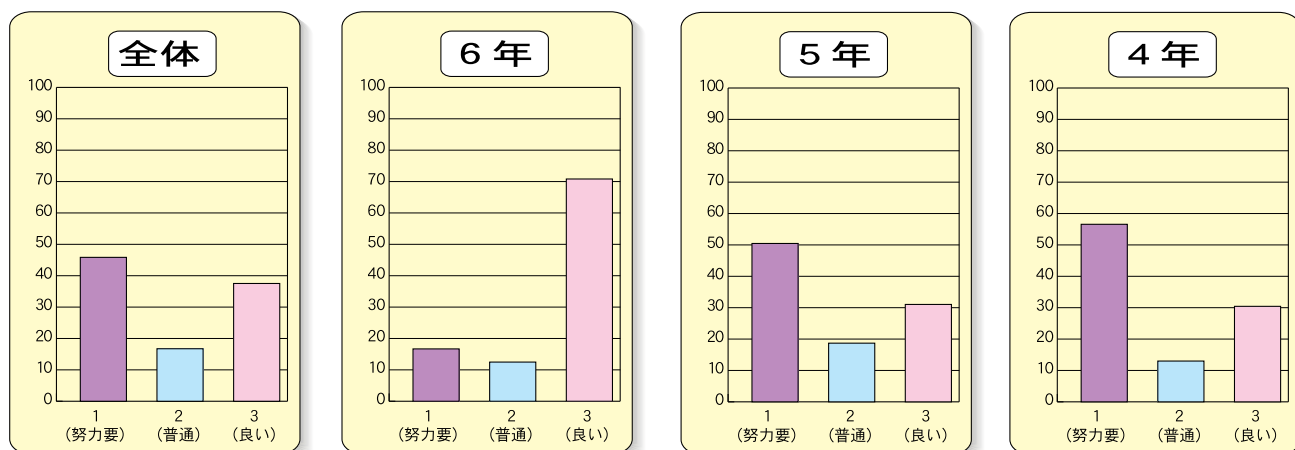
平成20年度「学力調査結果」から
3段階評定の割合

A小学校

数値は割合（％）

算 数			
評 定	1 (努力要)	2 (普 通)	3 (良 い)
2 年	16.7	12.5	70.8
3 年	45.8	16.7	37.5
4 年	73.0	13.5	13.5
5 年	41.9	22.6	35.5
6 年	43.5	26.1	30.4
全 体	44.2	18.3	37.5

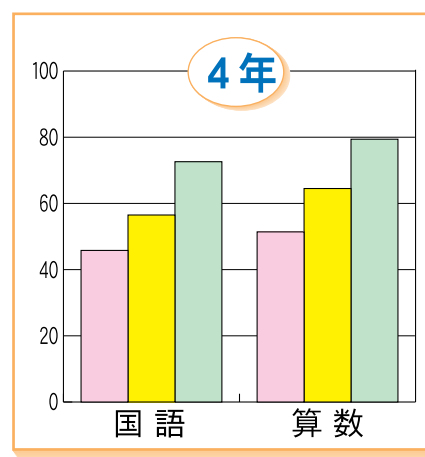
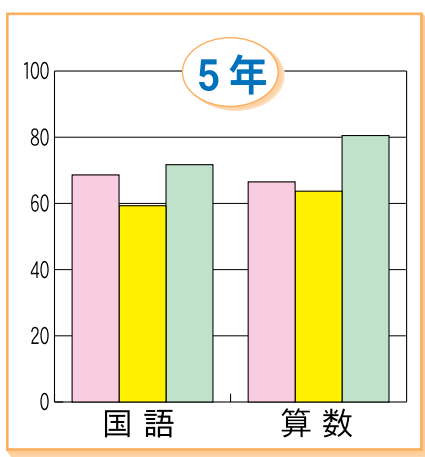
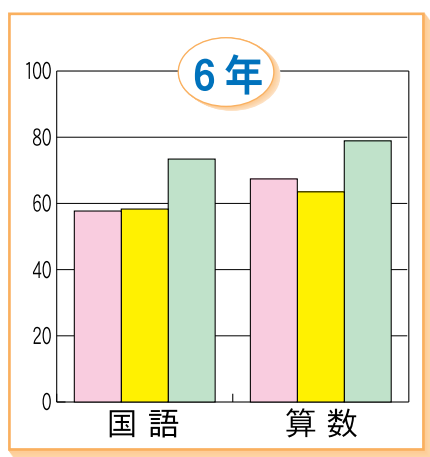
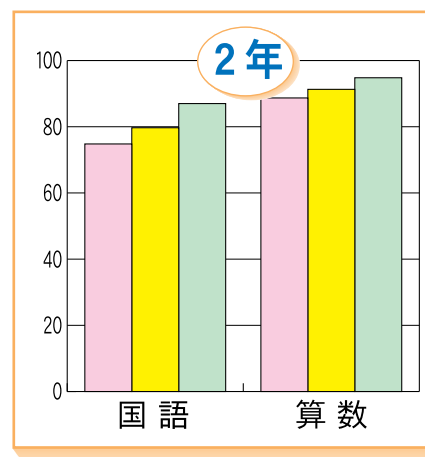
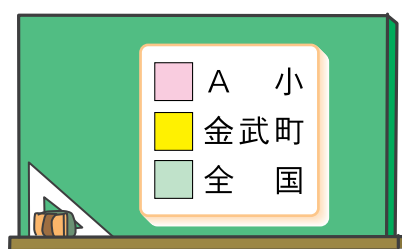
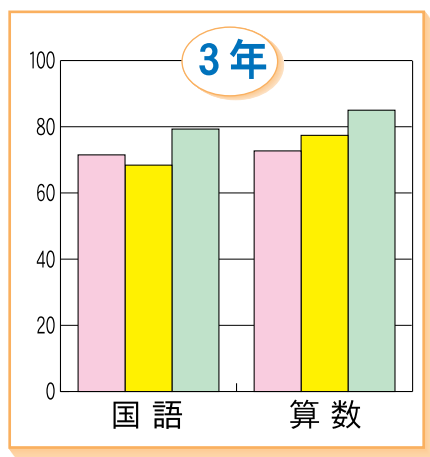




平成20年度「学力調査結果」から 全国・金武町との正答率の比較

A小学校

	2 年		3 年		4 年		5 年		6 年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
A 小	74.8	88.7	71.5	72.7	45.8	51.4	68.6	66.5	57.7	67.4
金武町	79.7	91.3	68.4	77.4	56.5	64.5	59.3	63.7	58.3	63.5
全 国	87	94.8	79.3	85	72.6	79.4	71.7	80.5	73.4	78.9



IV 各PTA取組について

一、A小学校のPTAの取組について

PTAの支援活動が今強く求められています。子どもたちの学力が定着していないこと、さらに日々の授業についていけない児童が目立って増えています。大変厳しい状況です。

世界のグローバル化に対応するため、さらに日本の児童・生徒の学力が国際比較において相対的に落ちてきたことなどが考慮され、文部科学省の指導のもと学習内容がレベルアップ・スピードアップが図られました。これにもとずき学校現場も厳しい対応を迫られ孤軍奮闘しています。父母や地域の協力を強く要望しています。つまり、家庭と地域との橋渡しであるPTAの活動を通し学校との連携を強め、地元の学校を子どもた

ちの「誇れる砦」にするための、支援体制を確立したいのです。

そこで、次のような理解と協力をお願いします。

(一) 家庭学習について子どもたちの様子（・勉強時間・場所・意識）を親にアンケートをとる。

(二) PTA役員および会員と子どもたちとの交流会・レクレーションを企画し実施する。

(三) 学校現場の変化および子どもたちの学力を会員に教宣する方法を確立する。

(四) 学校・地域と連携し、学力先進地域より講師を招聘し講演を企画する。

(五) 学校・地域と連携し、食事・栄養指導を給食センターの栄養士を招聘し会員に指導させる。

現在、PTA活動は学校が主催する行事に参加することが、主な取り組みになっています。

ます。

もちろん、大切なことですが、

上記に示した(一)～(五)の取り組みを通し独自の活動分野を確立して下さい、そしてPTが二人三脚となり、子どもたちをさらに支援して下さい。

V 家庭学習・基本的生活習慣の確立について

学力向上は地域・家族が一体となって進める方向で取り組まなければなりません。

「自ら人生を切り拓き市民として社会に参加する力量」こそ真の学力です。

まず第一に子どもたちを家族全員で支えていく体制がとって大切です。例えば学校行事にはお爺さん・お婆さんも参加し応援してあげるのがです。運動会や学芸会などに参列し頑張っていることを確認し喜んであげるのがです。さらに、現在は夫婦共稼ぎの家庭が多くなっています。その際保育園・小学生はお

爺さんやお婆さんが向かえてあげ、おやつを与えてあげるので

出来れば子どもが宿題ができるような場所を提供してあげます。そしてその後残った時間を一緒に過ごしてください。その子どもは大人になって、必ず心から感謝の念をしめます。勉強の内容は見る必要はありません、その役割は親の役目です。

他方、子どもたちは地域との関わり合いを意識させ、出来る限り町の祭り行事に参加させ、各自役目を持たせるのです、金武町民の一員であることを認識させていきます。町内の自然体験学習・歴史遺跡体験そして、エイサーや舞踊など金武町文化の学習も学校行事の中に取り入れられて行きます、理解を示身に付けさせていくのです。

家族を信頼し、地域に誇りを持つようになった（アイデンティティーの獲得）子どもたちに、人生の基礎・基本となる学

力をつけてあげることが、本人はもちろんのこと、将来の町の担い手を育てる喜びなのです。

当然のこととして最も重要な役割の担い手は親です。まず母親は生活習慣と家庭内のしつけを厳しく、手を抜かず毎日行っていくください。また父親は家庭学習のコントローラーが役目です。

今日の宿題・プリント・復習など、予定通り終了したかどうかを毎日確認してください。そして時間の許す限りなかみを確認してください。不都合の日は母親か他の誰かに依頼し、確実に行えるようにしてください。

さらに、保育園期から小学校三年頃までは、就寝前に十五分程度童話の読み聞かせを日課として、子どもに本読みのすばらしさ・楽しさを教えてください。気がついたらこどもは自分で本を読みながら、字句の学習をせがんでくれます。無理をせず、ゆっくり教えてください、すすくと理解していきます。家庭

教育は夫婦の連携プレーが基本です。

上記の具体的な取組を先進地域の事例のなかから抜粋し・アレンジして示します。

(一) 家を出る一時間前には起きる(六時三十分がおすすめ)。

・毎日朝食をとる。(体にス
イッチをいれ、やる気と集中力アップ)。
・睡眠時間は八時間程度とる。
(同じ時間に起きる、布団をたたみ・洗面・着替え・持ち物確認)。

・規則正しい生活リズムが大切です。(時間円グラフを使い自分の一日の生活をデザインする)。
(二) 児童の学習時間は毎日一時間程度(得意なことから始める。宿題・プリント・復習・予習は日課)。

・読書(興味のある事柄ら・おもしろい・楽しめる本を紹介してもらう)。
・テレビ・ゲーム・インターネット

ネットのルールを家庭内で決める(一日一種三十分以内を基本とする)。

(三) 心豊かな人間になるために必要なことをおこなう。

・社会のルール・マナーと学校のきまりを注意し守る。(皆が等しく幸せになります)。
・明るくあいさつをする。すべての事が挨拶から始まり心が開き、気持ちが開くようになります。

・家族の一員として、進んで家のお手伝いをするのも大切です。
(四) 地域の行事に参加して、交流を深め地域の良さを理解する。

・わが町の史跡・文化・自然体験学習に参加しすばらしさを理解する。

・わが町の特徴や課題が新聞やニュースに出たら質問して理解を深める。

VI 地域人材の活用及び各種団体への協力について

一、地域の人材活用

(一) 学校内における協力

・PTA会員による「朝の読み聞かせ」。
・当校卒業生・諸先輩「先輩から学ぶ進路学習」。
・地元警察による「交通安全指導と登下校時あんしん教室」。
・芸能卓越者による「ふるさと歌の会公演」。

この他にも、活用の仕方がいろいろあるはずですが、学校の評議員会で検討してください。

(二) 学校外における協力

・少年野球・伊芸ドラゴンズの新島一人監督・屋嘉アトラスの仲間安二監督が指導。子どもたちの体力向上・健康管理と安全な居場所提供に大きく貢献。
課題は部活と家庭学習を両立させるため、終了時間の

設定と保護者の協力体制の再検討が必要。

二、各種団体への協力について

(一) 校内における現在の地元各種団体の協力は下記通りです。

- ・伊芸老人会による校内草刈り作業としめ縄つくり指導
- ・人権養護委員会による情緒教育（いじめる子・いじめられる子）公演

地元の各種団体への協力依頼は、具体的な事柄について団体を指定し、学校側から要請を重ねる事や、学校行事に参加依頼の招待状等を毎回贈り、関心の目を引き付けることだと思われま

(二) 校外における地元各種団体の取り組みについて。

- ・社会福祉協議会の受け持つ委託事業が各区事務所等で学童保育が行われている。

校区	地区	人数
嘉芸小学校	伊 芸	7
	屋 嘉	28
金武小学校	金 武	24
	並 里	20
中川小学校	中 川	20

基本的な目的は父母の就労支援（共稼ぎ家庭等）事業である。

子どもたちの「安全確保」「遊び支援」「おやつ提供」が主な業務となっている。そして「その他児童の健全育成上必要な事柄」となっているが、指導委員の指導要領は統一性がない。

この指導要領に下記の具体的事柄として業務化することを提案していただきたいと思っています。

- ① 明るいいあいさつの指導。
- ② 丁寧な言葉使いの指導。
- ③ 宿題の指導・確認。

今年度から屋嘉区事務所の

においては、上記①～③を指導要領に取り込み学童を保育している。

学童が素直に受け入れている様子や、指導員が気概（愛情）をもって明るく振舞う様子がありません。

その他の学童保育所（伊芸区）も同様に実施してほしいと思います。

参考資料

(注一)「すべてのこどもに確かな学力を」、岸本裕史著、たかの書房。

(注二)「学力の社会学」刈谷剛・志水宏吉編、岩波書店。

(注三)「うちの子の将来と学力」、尾木直樹著、新日本出版社。

(注四)「小学校」「総合的な学力をつけるために」、福井県学力向上推進委員会。

(注五)「金武町学校給食センター」、食育用パンフレット」。(注六)「金武町放課後児童健全

育成事業実施要綱

追

私たち学力向上対策分析検討委員会は、平成二十年十一月十二日に委嘱状を受け組織されました。そして十一月十八日に各学校からの取組状況及び資料の提供を受け本格的に分析検討に入りました。検討を重ねて行くうちに状況把握や資料の更なる理解を深めるために、学校現場視察そして取組のそれぞれの説明を現場で受けることにしました。

嘉芸小学校・金武小学校・中川小学校・金武中学校と訪問し、授業状況・到達度テストの協力体制や設備状態の説明を受けました。そして答申書を作成していきました。

わたしたちのメンバーは、奥間俊信、仲間清一、宜野座将秀、平良瑞枝、池原政文、伊波盛武そして、安富信武の七名です。ここに、上記全員の署名・捺印

のもとに、答申書を提出致します。

氏名	捺印又はサイン
奥間 俊信	
仲間 清一	
宜野座 将秀	
平良 瑞枝	
池原 政文	
伊波 盛武	
安富 信武	

VII 平成二十一年度新規事業等（参考資料）

I、Q_U研修会(hyper-Q_U検査を実施予定)

※ Q_U(Questionnaire

Utilities)とは

学校生活における生徒個々の意欲や満足感、及び学級集団の状態を質問紙によって測定するものです。「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」「居心地の良いクラスにするためのアンケート」から構成され

ている。アンケートからは以下の情報を得ることができます。

- ・生徒個々の学級生活における満足感や、学校生活における意欲
- ・生徒の満足感や意欲の分布状況による、学級集団の雰囲気や成熟（心身の成長度）状態
- ・学級や学校生活における満足感や意欲に関する、生徒の学級内での相対的位置

※ hyper-Q_U

（「ソーシャルスキル尺度」が加わっています。）とは

- ・「ソーシャルスキル尺度」が加わったことにより、集団形成に必要な対人関係を営むためのスキルが、生徒にどの程度身についているかという視点を含めた、より多面的な情報を得ることが出来ます。
- ・コンピュータ診断による豊富な資料が得られ、それらを総合して、学級の状態や今後の指導指針についてコメントとしてまとめられています。

- ・生徒返却用の個人票が付属されるので、生徒自身への結果のフィードバックが可能です。

(一) 目的

学級集団の分析と対策について研修し、居心地の良いクラスにするために、やる気のあるクラスを作るために寄与する。そのことで、先生方が今までより工夫改善された学級経営を遂行することで、児童生徒一人一人が悩みや不安を抱えず安心して学校生活を送り、徐々にでも自信を持って授業等に臨めるようになり、先生方の授業力アップ児童生徒の学力アップにつながるようにする。

(二) 計画日程

- ① Q_U検査を実施するにあたって、Q_U検査の意味、活用やねらい等について教職員全員が共通理解や認識を得るための研修会（特別活動研修会と併せて実施）
- ② 第一回Q_U検査実施（朝学

活や帰りの会等で実施できる）※五月下旬頃実施

- ③ 第一回Q_U検査結果をもとに事務所派遣先生からの指導助言を受ける。

※校内研修と位置づけ、日程は各校で調整する

- ④ 第二回Q_U検査実施

※十一月頃実施し、児童生徒の変様や成果を確かめる。

二、学力向上対策及び授業力向上に向けた研修

(一) 金武町学力向上対策委員会の取り組み

これまでの金武町学力向上対策は、報告書をまとめ実践発表会をすることで終えているような印象を受けた。形骸化されたこれまでの対策委員会を打破するには思い切った取り組みをしないと、教育長の思いを受けて学校、地域、教育委員会の連携で学力向上を図ろうと、これまでの流れを気にせず、具体的な取り組みを推進しています。

① 全国学力・学習状況調査の結果は厳しい現実が示されました。各学校にその結果を分析・検討のうえ、学力向上対策をまとめ報告するよう求めました。

新しい体制で設置した分析検討委員会で各校長先生からの報告を受け、各学校の抱える課題や問題が浮き彫りになりました。町は四年生担任連絡会で到達度テストに向けて年会計画を立てさせました。

前期は児童一人一人の苦手領域の克服、基礎基本の定着、後期は実践力を身につけるために教育委員会ではB問題、類似問題等の資料や情報を提供し取り組ませた。五年生対象町独自の基礎学力テストも含め、各学校の対応として管理職を含め全職員体制で、習熟度別、個別指導等々それぞれ学校の現状を踏まえて取り組んでいることが確認できた。

② 今年度よりインターネット

利用による教育ソフトの活用と「学び合い授業」を取り入れ、中川小学校は今回の到達度テストでその成果が現れ全国平均を上回った。国頭事務所としても特筆する事例だとして、学力向上対策連絡協議会実践発表会発表したらどうかという提案を受けて発表した次第である。

(二) 分析検討委員会の取り組み

分析検討委員会は各校の学力向上対策に係る課題や問題点を分析し、具体的な改善点、工夫点を地域、教育行政、学校それぞれで出来ることを実現させるべく実行計画を推進中である。

例えば嘉芸小学校四年生は学力三段階評価で（一良い、二普通、三努力要）三が八十%を占め、深刻な問題を抱えている。学校としても管理職も含め、全職員体制で個々に指導にあっている。小一の算数を丁寧に教えてやっ

と理解したかと思うと一週間後は忘れているなど、遅々と学力が伸びないと嘆いている。分析検討委員会は、児童保育に教育委員会も関わり就労支援の視点だけでなく、低学力児童の学力向上という目的も視野に入れて、児童保育のスペースに低学力児童も通わせ家庭学習（予習、復習、宿題）の支援が出来るように社会福祉と相談しようと検討中である。

(三) 授業力向上に向けた研修

県内外授業力向上に向けた研修会や実践をし成果を上げている学校や研究機関の先生を招聘し、校内研修等で指導助言を受け、授業力向上に資する。

三、活用型問題対応指導力向上研修会

(一) 目的

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力等を身に付けさせるために、情報や資料等を収集し、学校への情報提供等の支援と共に、活用型問題について研究し実践している研究機

関等から講師を招聘し、町内生方の指導力向上に資する。

(二) 計画・内容

① 活用型問題に関する取組情報や資料等を収集し、学校への情報提供等の支援
② 各校内研修等で活用型問題について研究し実践している講師を招聘し、町内生方の指導力向上に資する。

四、ティーチャーズトレニング

グ（発達障害児童生徒への対応等に関する集中トレーニング）

(一) 目的

発達障害児童・生徒を抱える学級担任等が自信を持って、より効果的な教育ができるような実践力等を高める。

中川小学校では、本年度、自費でティーチャーズトレニングを行った先進校である。発達障害児童を抱え、悩み苦勞していた先生が自信を持って児童に接するようになり、先生、児童

共々以前より表情が良くなって
と報告を受けている。

(二) 計画・内容

- ① ティーチャーズトレーニング
はハードな訓練であるが、
その効果が観られることか
ら発達障害児童・生徒を抱
える学級担任の中から訓練
に参加希望者五・六人で
いる。
- ② 来年度の様子を見て、訓練
対象人数の増減を考えたい。

五、教科研究会

(一) 目的

金武町内の教職員や学校関係
職員が教科・領域の指導及び学
校事務について、その改善・充
実を目指して研究・実践を行い、
児童生徒の学力の向上や基本的
生活習慣の形成を図り、本町教
育の振興に資するものとする。

(二) 計画・内容等

教職員は研究を深め、資質の
向上を図ると共に、自ら課した
研究テーマに添った実践発表

(研究授業等)を行い、町内の教
職員に還元する。

(三) 研究及び実践例

「学び合い授業」をテーマに研
究を進めていたことを、国頭教
育事務所、教育委員会、町内教
職員参観のもと提案授業で公表
された。その後、中川小学校に
おいてはインターネット利用に
よる教育ソフト活用と併せて授
業を進めてきました。

その成果が、今回の到達度テ
ストの結果(国語、算数共に正
答率九十%)に繋がったと思わ
れる。他にも教科研究を続けて
いる中で、実践を試みながら成
果を出している例もある。教科
研究に誠実取り組む先生方を見
ていると、是非来年度も続けて
教職員質の向上につなげていき
たい。



VIII 平成二十一年度事業計画(参考資料)

7月		6月		5月		4月		月
☆家庭学習習慣化強化期間 ◇県学対訪問、町教委学校訪問 中川小学校		☆町教委学校訪問(中川幼・小) ☆町教委学校訪問(金武幼・小) ☆家庭学習習慣化強化期間 ☆町教委学校訪問(金武中) ☆町教委学校訪問(嘉芸幼・小) ☆校内研修(授業力向上につい て)↓研修の持ち方は各校で		☆実績報告書作成 ☆会計監査 ☆標準学力調査の実施 △地区学力向上対策委員会総会 ☆町学力向上対策委員会研究委 員会 ☆西川純「講演」等		☆町教育委員会学力向上推進校 指定(小三校、中一校) ☆町学力向上対策役員会 ○全国学力・学習状況調査:小 六、中三 ☆町学力向上対策委員会総会 ☆hyperQU研修会↓二回		事業名
3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	月
◇次年度計画	◇町学対実践発表会 ◇町学力向上対策役員会		◇学力到達度調査・小学校四年 生 ◇学力到達度調査・中学校二年 生 ◇町小学校五年生基礎学力検査	☆授業力向上強化期間 到達度テストに向けた対策	☆授業力向上強化期間	二回目のQU検査は九月・十月	☆町パソコン研修(各学校にて) ☆町B問題対応指導力向上研修 会↓研修の持ち方は各校で ☆町内幼小中合同研修会 ※授業力向上について講演を 含む	事業名

☆町教委 △地区事務所

◇教育庁&県規模 ○全国規模&県外

分析検討委員会

金武町学力向上対策
分析検討委員会委員長

安富 信武

早春の頃、皆さまには益々ご健勝のこととお喜び申しあげます。

さて、新聞報道を見て、金武町の子どもの学力レベルが大変厳しい状況にあることを知りました。

関係者は苦悩しているだろうな、以前PTA会長時代に取組んだことや、仲間達のことを思い出して、今も昔も、親やPTAの悩みは同じで果てしない課題なんだな、と思いました。

若いお父さん・お母さん頑張れ、「よそに負けないよう、子どももしっかり育ててくれよ!」ものですよ!と、心の中で応援していました。

そんな矢先、仲間教育長から「金武町の子どもたちの学力状況が大変厳しい、その為の委員会を立ち上げるので参加して欲しい」と要請をうけました。気にかけていた事もあり、微力な私であれば、役に立つのであれば協力します、と返事をしました。

そして、委員会の結成に因んで、メンバーで意見交換をして行く内に、当初は校長経験者の中から委員長を選任することになるだろうと、安堵していたのですが何時の間にか、わたしの意見に同意する先輩方の中から、「安富委員を委員長させよう」との提案が出て、そのまま押し切られてしまいました。

メンバー全員の最大の協力の約束があり、これまでの自らの経験（保育園の父母会長・小学校のPTA役員・会長、中学校のPTA役員及び同窓会会長の十五年余）が役に立つか、不安ですが頑張っていく決心をして

いるところです。わたしたちのメンバーは、奥間俊信、仲間清一、宜野座将秀、平良瑞枝、池原政文、伊波盛武そして、私の七名です。よろしく願います。以下、委員会で話し合いまとめたことを、報告いたします。

分析検討委員としての雑感



仲間 清一

り組んでいる様子に感心させられた。

二、個人的な見解として、学校も家庭も共通の課題とすべきことは、「分かる授業」の推進である。授業が分かると自然に次の課題へと発展する。分かる授業は楽しい。学校が好きになり、いじめもなくなる。難しい課題であるが、それは予習の奨励で幾分解決できることだと考える。分からない箇所に赤線を引くだけでも予習である。学力世界一のスウェーデンの児童生徒は学習塾などへ行かない。お互いが教え合いながら意欲を高めている様子が放映されていた。将来の目標を持っていることも、注目すべきである。

三、嘉芸小の学校長が教育は「チーム力」といわれたことに感銘を受けた。学校だけ一生懸命になっても、地域や父兄の協力がないと達成されない。全く同感である。親はど

一、全国学力検査の結果を受けて、分析検討委員会が設立された。本町の児童生徒の学力は県内で、望ましくない位置にあることを知る。学校では家庭学習ノートを奨励し、児童生徒の学習意欲の向上に取り組んでいる。各学校では、全職員によるチームティーチング（集団指導）を導入し、全職員が学習意欲の向上に取

の子よりもわが子が大事である。親は子どもの将来まで責任を感じて、わが子の教育に感心と態度を示してほしいと思う。

四、「チーム力」を伸ばす組織の設置を望むものである。地域を代表する区長やPTA会長、父母代表、婦人会長などで構成し、地域と密着した組織がいいと考える。金武町の児童生徒が二十一世紀を逞しく生きてゆくには、教育は欠くことのできない栄養素である。町民全体で教育に関心を持つて何らかの行動する時である。



嘉芸小学校 校長
平良 瑞枝

『たくましく生きる力』

教育委員会が動き出した。全国学力・学習状況調査の結果を

全国と比することはさておき、全県と比しても下方である現実を直視し、千百二十四名の金武町の次代を担う宝子に『たくましく生きる力』を培うには、如何にせむやと。知育、徳育、体育が調和して初めて「確かな学力」となるこの学力を一人ひとりの子らに身につけていくには、「行政・学校・家庭・地域」が各々の役割を認識し、力を出すことだけでは事足らず、それぞれが、しっかりと手を結んで総合的に関わっていく事が、最も大切で喫緊の課題である」という確固たる信念を礎に、構成なさっている方々の識見の豊かさに支えられて会はずすんでいる。

現場からも、ということに加させていただいているが、現場の一例として本校を考える事で始められた。安富委員長は、学校評議員会に、夜のPTA役員会に、給食を子ども達と、少人数学級の授業参観にと精力的

に関わって下さり、提言をまとめ上げた。提言であるが熱い願いがこもっている。しっかりと受けとめ、山を動かしたい。



金武町学力向上対策
学力調査委員会
分析委員

伊波 盛武

啐啄同機

「そったくどうき」あるいは

「さいたくどうき」と読みますが、「広辞苑」によると、「啐」は鶏の卵がかえる時、殻の中で雛が殻を突く音、「啄」は母親が殻をかみ破る音とあります。

その意として、①禅宗において、機を得て両者相応じること。②逃したらまたと得がたいよい時機、と載っています。

卵が孵化する時は、卵の中の雛が殻を突いて破ろうとし、また親鳥もそれを察して、外から

殻を破ろうとする。そのタイミングが一致して初めて、殻が破れ、雛はこの世に生を受けて外の世界に出ることが出来ると言うのです。

親が速すぎても、子が遅すぎてもいけない、この自然の中に存在する絶妙なタイミングの一致を「啐啄同機」と言うのです。禅宗においては、この「親鳥と雛」の関係を「師と弟子」の関係に置き換え求道中の弟子の悟りが師の一喝で開くことを譬えました。

生徒の成長は先生や私たちにとって何事にも替えがたい喜びなのですが、教育とは教えることと同時に「待つ」事なのではないか。理解できるのを待ち、作品や成果が出るのを待ち、コミュニケーション力がつくのを待ち、「よし！出来た！偉いぞ」と褒めてあげる。また、問題のレベルをちょっと上げ、ヒントを与えて「君なら出来る。考えてごらん」と「啄」を先にする

の必要かもしれません。
「啐啄同機」と言う言葉にめぐりあって、「何で解らないの!」「もっと勉強しなさい」とか、あれこれ言うのはやめようと思うのですが、凡人であるゆえ日々悩む今日このごろなのではありません。

『学校、家庭、行政が、それぞれの役割を』



元 小学校校長
奥 間 俊 信

子ども達が、各学年で学力を修得することは極めて重要です。それが、よき社会人、職業人の基になるからです。

子ども達の成績には上位下位があり、学校ではそのことに配慮して日々授業を行っています。学力の底上げをするには先ず、基本的生活習慣の確立と家庭学

習の実践でしょう。しかし、家庭学習をしない、躰ができない家庭が増えつつあります。行政、学校、地域が一体となって子どものやる気、親の教育力を高める支援活動が急務であります。

次に、成績上位者の学力の向上を目指して、学校は対策を講じていますが、さらに都市地区では進学塾が、その役割を担っており、その格差が広がっています。これは子ども自身の努力だけでは解決できる問題ではありません。

学力の底辺だけでなく、上辺の向上も見据えた行政の推進が望まれます。

学力の向上は、学校、家庭、行政が、それぞれの役割を明確にし、継続的に取り組むことが肝要であり、私も皆さんとともに取り組む所存です。



各学校の一事徹底

○中川幼稚園

自分のことは自分です。話を聞く態度の育成

○金武幼稚園

丈夫な身体になるために 食料への興味・関心を深め、好き嫌いをなく給食を食べる。

○嘉芸幼稚園

基本的生活習慣の育成（話を聞く態度、食事）

○中川小学校

きちんと聞き、正しく話す。
聞く↓目・耳・顔・心で聞く。
話す↓主語・述語をきちんと使う。

・「です」「ます」で話す。
・正しい・美しい言葉で話す。

○金武小学校

家庭学習の習慣化（がんばりノートの活用）朝の十五分間読書（児童・全職員）学級における生活・学習時のルールづくり

○嘉芸小学校

「読書活動の習慣化」

○金武中学校

姿勢を正しく、話し手の顔をしっかりと見て、話を聞くことができる。

編集後記

「分析検討委員会発足一年目」教員OB、現校長、現区長教育委員と多岐にわたる方々の視点や意見を集約し、学校の支えになる施策等が提言できればという思いで分析検討委員会を進めてきました。

一年目は、「自分たちの果たす役割は何か」という内容から模索が始まりました。学校の取組や課題を、町民の方々に知らせ、地域の方々に理解や協力がえられるようにするために、分析検討委員会がコーディネート役を担い、地域との連携や協力が図られる具体的な方策を立てようと取り組んできました。

二年目は、更なる前進を目指し取り組んでいく所存です。

今年度も、ご指導ご鞭撻の程をお願い申し上げます。